

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
京都府医師会館

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									3.3
Q1 室内環境					0.40				3.2
1 音環境				3.6	0.15	-	-		3.6
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-		
1 暗騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-		
2 設備騒音対策				-	-	-	-		
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		遮音性能T-2のAWを使用		5.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音		床及び天井で吸音		4.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-		3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温設定				3.0	0.38	3.0	-		
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-		
3 外皮性能		窓:U=6.0程度、壁:U=1.0程度		3.0	0.25	3.0	-		
4 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
5 温度・湿度制御				-	-	-	-		
6 個別制御				-	-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-		
8 監視システム				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.4	0.25	-	-		3.4
3.1 昼光利用				3.6	0.30	-	-		
1 昼光率		CH=2,700と十分な開口部を確保		4.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-		
1 照明器具のグレア				-	-	-	-		
2 昼光制御		ブラインドと庇を併設		4.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				3.0	0.15	-	-		
1 照度				3.0	1.00	3.0	-		
2 照度均斉度				-	-	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				3.3	0.25	-	-		3.3
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	-		
2 アスベスト対策				-	-	-	-		
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-		
4 レジオネラ対策				-	-	-	-		
4.2 換気				4.0	0.30	-	-		
1 換気量		一人あたり30m3/h以上の換気量を確保		5.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮		排気口の向き、給排気のショートカットに配慮した配置		4.0	0.33	3.0	-		
4 給気計画				-	-	-	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.4
1 機能性				3.5	0.40	-	-		3.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		10㎡/人想定		4.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		OAフロア、60VA/㎡、テナント間EEPSなし		3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.3	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		CH=2,700		4.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース				1.0	0.33	-	-		
3 内装計画		京都らしくシックな内外装、モノトーン基調で瓦調のタイルの使用		5.0	0.33	3.0	-		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		外装:RC面のASC塗装など、内装:コア廻り壁のECP版採用など。		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		窓清掃バルコニー、PS内のバルブ設置、外調機のMR設置など。		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.5	0.31	-	-		3.5
2.1 耐震・免震				3.8	0.48	-	-		
1 耐震性		地震力の割り増し係数1.25		4.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		15年を想定		4.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトにはガルバリウム鋼板を採用		4.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水にはVLP、排水・通気には耐火二層管を使用		5.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-		

2.3 適切な更新				-	-	-	-
2.4 信頼性				3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用、雨水の中水利用		4.0	0.20	-	-
3	電気設備			3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性				3.1	0.29	-	-
3.1 空間のゆとり				3.6	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高3.8m		4.0	0.60	3.0	-
2	空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.38	-	-
1	空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペース			3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮		軒の深い庇による横基調のファサードなど京都を意識したデザイン		5.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	歩行者に対する壁面後退と庇、防犯用照明の設置など		4.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制				3.0	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用				3.5	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用	東面・西面の風の抜け道の確保		4.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		CEC/AC:1.08、CEC/V:0.91 ERR=32.2		4.0	0.30	-	-
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-
1 水資源保護				4.2	0.15	-	-
1.1	節水	節水型衛生器具の使用		4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用			4.3	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	雨水の中水利用		5.0	0.67	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減			3.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材の路盤材利用		3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	仕上と躯体、設備との容易な分離		5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.9	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用	有害物質の使用禁止を明記		5.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避			2.0	0.68	-	-
1	消火剤	ガス系消火設備無し		-	0.33	-	-
2	断熱材			3.0	0.33	-	-
3	冷媒			3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		自然エネルギーの利用、リサイクル材の使用、高効率機器の使用		4.1	0.33	-	-
2 地域環境への配慮				3.5	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止	燃焼機器設備無し		5.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減			-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制	附置義務以上の駐車台数の確保、入口への左折侵入		5.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-
1	騒音			3.0	1.00	-	-
2	振動			-	-	-	-
3	悪臭			-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制				1.6	0.40	-	-
1	風害の抑制			1.0	0.70	-	-
2	日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	適性照度の確保、タイマー制御による省エネ		5.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-